

⑥三陸沿岸道路 山田宮古道路

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 三陸国道事務所

キーワード 復興道路、施工計画の工夫、工期短縮

全建賞審査委員会の評価ポイント

復興道路である三陸沿岸道路「山田宮古道路」の整備事業。「山田宮古道路」は、山田IC（岩手県下閉伊郡山田町山田）から宮古南IC（岩手県宮古市金浜）を結ぶ延長約14kmの自動車専用道路である。

用地取得前に埋文調査を実施するなど工期短縮を図った点が評価された。

1. はじめに

三陸沿岸道路は復興道路に位置づけられ、東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとして整備が進められているところである。

「山田宮古道路」は、三陸沿岸道路の一部となる延長14km（山田IC～宮古南IC）の自動車専用道路であり、震災後に事業化した区間の先陣を切って、平成29年11月19日（日）に、事業化から僅か6年という極めて短い期間で開通した。

2. 事業の概要

山田宮古道路は復興道路として、1日も早い開通が地域からも求められており、従来以上のスピードでの事業推進が必要であった。このため、プロジェクトチーム体制、事業促進PPPを導入し事業マネジメントの充実を図った。工期短縮の一例として「用地取得前の埋蔵文化財調査」があげられる。土工区間の多い山田宮古道路においては、埋蔵文化財の有無が事業展開に大きく影響するが、土地所有者の了解を得たうえで、用地取得前に埋蔵文化財調査を実施し、大幅な工程の短縮を実現した。事業マネジメントの効果、関係者の熱意が地域住民の理解と協力につながった結果である。



埋蔵文化財調査立ち合いの状況

その他にも、各事業プロセスの同時進行、発注ロットの大型化による施工者間の調整の削減、各種イベント開催やCSR活動を含めた「見える化」の徹底による地域住民の事業への理解と協力的な環境づくりなど、様々な観点から事業のスピードアップに取り組んだ。

3. 事業の成果

山田宮古道路の開通により、国道45号と合わせた断面交通量は1.2倍に増加するとともに、開通済みの隣接区間である山田道路、宮古道路においても交通量が1.3～1.5倍に増加している。また、山田町を発着し、宮古市～盛岡市経由で東京・横浜方面をつなぐ高速バスも、経路を山田宮古道路、宮古道路に変更することにより、所要時間の短縮が図られている。山田宮古道路の早期開通は、三陸沿岸地域の物流や、広域交流の活性化に確実に効果を発揮している。



開通式・テープカットの様子

4. おわりに

復興道路・復興支援道路は平成23年11月の全線事業化以降、東北太平洋岸を中心に、全面的に事業展開を図っている。

三陸国道事務所管内でも、太平洋沿岸を縦に結ぶ三陸沿岸道路と、三陸沿岸と内陸を横に結ぶ宮古盛岡横断道路の整備を推進している。

東日本大震災からの1日も早い復興のため、復興道路・復興支援道路の全線開通に向け、引き続き強力に事業を推進していく。

賛助会員 (株)奥村組東北支店、株建建設(株)仙台営業所、(株)熊谷組東北支店、(株)建設技術研究所東北支社、世紀東急工業(株)東北支店、東急建設(株)東北支店、戸田建設(株)東北支店、西松建設(株)東北支店、パシフィックコンサルタンツ(株)東北支店、(株)復建技術コンサルタント盛岡支店